

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392300162		
法人名	有限会社 たつみ		
事業所名	グループホームほっと		
所在地	瀬戸市宮里町27-1		
自己評価作成日	令和5年10月28日	評価結果市町村受理日	令和6年4月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigoyosoCd=2392300162-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigoyosoCd=2392300162-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和5年12月16日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自宅で行っていたこと、本人の趣味、好きな食べ物、など、極力近づけて行けるように職員は忙しい中でも個別ケアに力を入れて頑張っております。コロナが5類に変わってからは、天気の良い日、職員の手がすいている時は極力散歩に出かけるようにしています。利用者様に五感で四季(風や太陽、花やすがすがしい空気)を感じ取っていただけるように又ご近所の方がたにも知っていただき銀座商店街での(藤井聡太8段)のイベントなど参加したりしています。おやつはなるべく手作りを心掛けています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

アットホームで利用者も職員も明るく、いろいろな活動をみんなで誘い合って楽しんでいる。身体機能を維持できている利用者が多く、近所の神社や商店街、公園への散歩やドライブ、外食など外出機会を増やしている。また、家族と過ごす時間を大切にしてほしいというホームの思いから、家族との面会や外出を気軽にできるよう支援している。利用者が家族に会える日を心待ちにし、次の訪問を楽しみに玄関まで見送る姿がある。  
窓が大きく、明るい日差しが心地よく差し込む室内は、掃除が行き届き、清潔で過ごしやすい環境を常に保っている。食事や洗濯、掃除は利用者も役割として行い、理念である「普通の家で生活し、楽しい人生を送る」の実践が日々の支援の中に根付いている。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関の入り口に提示してあります。職員全員で共有し、利用者様一人一人に寄り添い笑顔で会話している。	理念の中の「普通の家」を、職員が日常の支援の中で実践し、家庭の雰囲気、健康、笑いを大切にしている。職員アンケートを実施し、理念に対して意識した支援ができるよう、振り返りの機会を設けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今後コロナが5類に変わったので地域の行事など参加したり、散歩などでご近所の方にも顔を覚えていただきます。	外食には地域の飲食店を利用し、商店街や保育園との交流を、地域の一員として継続している。地域行事へ参加し、地域に向けての介護や認知症についての情報発信に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員も認知症ケアを社内研修、社外研修で学んだり職員会議でモニタリングの評価の話し合いをしている。運営推進会議では利用者様の状況など話している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告書やほっとたよりの写真を見ながら説明、報告している。他の施設の良い所を聞き参考にしている。	行政や民生委員、交流のある保育園、市議会議員、研修医が参加し、活発な意見交換の場となっている。ホームの状況を知ってもらうだけでなく、地域の課題についても話し合っている。	地域の高齢化問題などから出される課題を会議で挙げてもらい、ホームの経験が活かされるような取組みを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	相談しやすい関係が築けている。運営推進会議には必ず出席して頂いている。その都度ご意見や相談、指導など受けている。	ホームの運営や利用者の処遇についてなど、不明点があればその都度、行政担当者へ連絡している。事故報告書等の提出時は直接窓口に行き、顔の見える関係づくりに努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	見守りを主に身体拘束をしないという事を9月の職員会議・運営推進会議で再度確認し徹底周知した。玄関の施錠は外部不信者防止の為時々に応じ施錠している。普段はセンターを置いている。	身体拘束ゼロを目指し、職員会議で定期的に困難事例などについて話し合っている。「転倒ゼロ」は難しいことを前提として、事例を用いた介護の工夫や、拘束する際の手続きやルールの理解を図る勉強会を継続している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修で高齢者の虐待防止法について研修をしながら再確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年一度は職員会議で権利擁護・(人権や尊厳のある人生)など話合っている。以前2名の方がこの制度を利用していたが現在はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は管理者が行っている。病気になった時の事が気になる人が多いので看取りについての話しは家族に十分話し納得するまで説明している。介護保険改定時は家族に文書にて同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で必ず本人家族に意見や要望等ないか聞いている。5類になってからは家族の訪問が多くなって来ているのでその都度何か気がついた事など無いか聞いている。	現在は家族の面会制限を緩和し、訪問時に利用者の様子やホームの取組みを伝え、意見等を聞く機会が増えている。家族の相談も受けながら、気軽に話がしやすい雰囲気と関係性作りに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	問題が生じたら毎月の職員会議で皆で話し話合っている。管理者は自分の考えを押しつけるのではなく職員で相談して決めている。	職員から活発な改善提案などの意見が出され、それらを集約して検討している。出された意見は、ホーム内で解決できることは管理者、修繕等の費用が発生するものは代表者に相談して運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者はもう少し事業所の事を把握して欲しい。 管理者の話に耳を傾けて欲しい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部評価の目標でもある職員の知識の向上に努める。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナも5類なったので瀬戸介護協会等会合を実施しているので出来るだけ出席してネットワークを作り色々参考にしてサービスの向上に努めていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	普段の生活等接している中で動作、顔の表情などで異常を感じたら声をかけたり話をじっくり聞くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来訪時には利用者様の様子を話し家族の要望や困りごとなどを聞きだし対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームの理念に沿って利用者様の好きな事が継続できるように職員一同支援していくように心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員一同「家族ではないが家族のように」自宅ではないが自宅で過ごしているように」の思いを大切に支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今まではコロナで家族を呼ぶことは出来なかったが今後は本人の誕生日会や行事等声かけをして行きたい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	5類になってからは散歩など出かける機会が多くなってきている。近所の方も挨拶等声かけをしてくれる。	面会制限を緩和したことにより、コロナ禍で会う機会がなかった親戚、友人等の訪問が再開され、利用者に笑顔が戻ってきた。散歩の途中に昔馴染みにの人に会い、立ち話に花が咲くこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同志のトラブルも多々ありますが職員が中に入りよく話を聞いて不満を解決出来るように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までの関係性を大切にしながら外で会った時 など声をかけたりかけてくれたりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	急に散歩に行きたい等言われる時もあるが職員は時間を割いて利用者様の思いを優先しきちんと要望に対応している。	それぞれの楽しみややりたいことを日常の支援の中で見つけ、把握したことはスタッフノートで情報共有している。誕生日のプレゼントは本人に希望を聞き、レース編みキットをプレゼントするなどの取組みを行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様がやりたい事好きな事好きな食べ物などを把握しており忙しいが対応出来るように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝は一人一人に声かけをしてその人らしい一日が過ごせるように常に考えながら支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議で毎回全員のモニタリングを行い今の課題を出し合い継続か見直しかを決める介護計画の作成見直しの参考にもなっている。	介護計画更新時には、利用者本人と家族の希望を確認し、ミーティング時に職員の意見も踏まえ検討している。モニタリングでは実施状況と今後の方針を記入し、介護計画へ反映している。	モニタリングには実施状況や今後の方針とともにプランの評価を明記できるように、書式の改善が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員同士で分からない事記録をみて情報を常に共有し話し合い見直しに生かせるよう提案していく。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	色々な社会支援を活用できるよう情報を収集し利用者様や家族のニーズにいつでも提案できるように勉強して行きたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	職員がどのような社会資源が活用できるか等年間研修に組み込んで勉強して行きたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の他に今までの係りつけ医にはそのまま係っている。家族が付き添って行ったりその時々都合に合わせて施設が付き添って行ったりしている。	現状、協力医が利用者の主治医となっているが、利用者の希望に応じ、かかりつけ医を選ぶことは可能となっている。主治医、訪問看護、薬剤師が連携して適切な医療が受けられる体制となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週水曜日訪問看護師が見えるのでその都度適切な処置をしてもらい一人一人丁寧に見て頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	現在利用者様が入院されていても、病院関係者との連絡もなかなか取りづらい、家族も一週間に一度15分の面会だけで情報も家族に聴く程度です。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合について入居時には説明している。施設でできる事を十分に説明しながら取り組んでいる。	入居時にホームの指針を説明し、利用者や家族の意向に沿い、希望した場合には訪問看護の対応ができる範囲で、看取り介護を行っている。訪問看護師は24時間の支援があり、医師との連携も看護師を中心に行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルは周知している。事務所に緊急対応マニュアルは張り出している。実践の訓練はしていない、今後の課題。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震と火災を想定した実通報訓練をした。ほっとは市の福祉避難場所に指定されている為最低2回は実通報訓練を行っている。	屋外に避難することを想定し、利用者も参加して避難訓練を実施している。高齢者の多い地域であるため、災害時に起こりうる課題や現状を運営会議を通して発信することを検討している。	地域の状況を考え、災害発生時にホームが求められる役割を認識し、行政や地域との協力体制を改めて築くことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様は人生の先輩なので言葉使いには特に気を付けて声かけをしている。トイレなど戸は開けっ放しにならないよう気をつけている。	本人の意見や思いを尊重し、内に秘めた希望を聞き、日課以外の時間は自由に過ごせるよう支援している。状況に応じ意図的に声掛けの言葉遣いを使い分け、尊重と馴染みのバランスに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コロナも5類なったので可能な限り散歩や外出など利用者様の体調に合わせ支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	編み物の好きな人には職員と一緒に編み物の指導をしたり又皆さんと一緒にできることを午前と午後、希望に沿って挑戦している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一度理美容カットを全員してもらいさっぱりとしている。入浴の際は着替えを本人と一緒に選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日会等行事には普段より少しご馳走を作り食べたいもの・好きな物など聞いて楽しんでいただけるよう心がけている。	食材の配達を利用し、職員が手作りで調理している。利用者の要望があれば、たこ焼きなどを皆で作って食べることもある。近所から届いた旬の野菜も取り入れて、季節を感じながら食事を味わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人に合った食事形態で提供している。他のクリニックで診察して頂いている人が栄養面はきちんと取れているから大丈夫です。と言われ水分量もきちんと取れるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの歯磨きの声かけをしている。出来ない人は職員が介助している。月に2回訪問歯科を受診している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員が一人一人の排泄パターンを記録し時間を見て誘導する。表情や言動を見ながらその都度声をかけをトイレでの排泄の支援をしている。	トイレでの排泄を支援するため、可能な限り介助している。自分でトイレにいける人にはプライバシーに配慮した声掛けをしている。適切な排泄用品を使用できているか、職員間で確認している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便ができるようおやつや服薬等で個々に応じた排便コントロールをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2～3回の入浴。一人一人の体調を把握し無理なく気持ちよく入浴してもらっています。柚子湯、しょうぶ湯など季節に応じ楽しんで入浴して頂いている。	入浴中は1対1の介助のため、話がはずみ、意向や希望が聞きやすい場となっている。入浴拒否があるときには、職員が声掛けをして工夫して無理強いをせず、入りたくなるよう働きかけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室での昼寝ソファでの休息などその日の体調に合わせて支援している。就寝については一人一人のタイミングで就寝介助をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の服薬には理解しようと努めている。薬が変更となる時は連絡ノートに記入している。疑問があれば主治医や薬剤師に指導を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人のやりたい事出来る事を考慮し作品作り買い物散歩等支援し気分転換を図っている。8月に夏祭りを予定していたがコロナが出てしまい敬老の日には皆さんで外食にでかけた。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常生活での散歩や個人的な買い物、今後は近隣の催し物など参加を支援していく。11月は紅葉見学を予定している。	天気の良い日は、近くの神社へお参りに出かけたり、商店街でソフトクリームを食べたり、公園ではヤギや子どもが遊んでいるのを眺めたり、普段の散歩コースでもその時々趣向を変えて、外に出る楽しみを味わえるよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族から自由に使えるお金お小遣いを施設で管理している。職員と一緒に買い物に行く事も多くなってきている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の要望がある時はこちらから電話の取り次をしている。毎年手作りの年賀状を書いてもらい家族に出している。家族が住所を印刷し持ってきて本人が書きたいとき書いて職員が出している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や居室の温度管理換気など職員が行い季節に応じた衣類の調整も行っている。季節を感じられる様2ヶ月に一度壁画カレンダー作成を行っている。(以前は毎月)施設全体は明るく清掃はこまめしている。外部からの評判も良い。	窓が大きく、明るいリビングにはゆったりとしたソファが置かれ、利用者同士が「こっちにいりゃー」と声を掛け合い、和やかな雰囲気が漂っている。楽しく歌いながら廊下で運動したり、折り紙や季節を感じる飾付けで彩っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一日をフロアで過ごす事が多いです。椅子やソファに座って新聞やテレビを見たりしながら過ごされている。休息したい時は自由に居室で休んでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使用していた馴染みの小物や家具。家族の写真など飾り安心して過ごしている。	居室には自由に家具の持ち込みができ、家族の協力のもと、その人なりの好みの居室づくりをしている。意図的にテレビを居室に置かず、リビングでの集いの時間を大切にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりが付いており歩行訓練に利用している。各居室の入り口には大きな表札が貼ってわかりやすくしている。トイレの場所も解りやすく表示している。		